

別院支部設立大会

2013年4月3日 大谷ホール



大谷婦人会会長挨拶



決意文宣誓



記念講演

題字 大谷妙子会長

2013年6月

真宗大谷派
大谷婦人会通信
vol.3

昨年から進められてきました、別院に大谷婦人会支部を設置いただく取り組み（二ページ参照）を経て、今春、京都教区の岡崎別院と大津別院にそれぞれ支部が設立されました。

このたびの新たな支部設立を祝し、四月三日、午前の「全国支部長・役員研修会」に引き続き、午後からは「春季永代経法要」勤修、そして「別院支部設立大会」を開催しました。

本年七月からは「真宗教化センター」建設工事が始まるため、今回が大谷ホールでの最後の「春季永代経法要」でもあり、設立大会には「全国支部長・役員研修会」や、「教如上人四百回忌法要記念奉仕団」に参加の会員方も集結し、百余名が参加しました。

式典では、宮本春美委員長が「伝統ある私たちの会にようこそ仲間入りをいただきました。喜びや悲しみをご縁として、ともに仏法聴聞してまいりましょう」と挨拶し、大谷妙子会長からは、岡崎別院支部と大津別院支部の代表者に、登録証が授与されました。

続いて、記念講演として、ゆずりさいけん 讓西賢師から「『問い』をいただくということ」と題しお話しいただきました。

最後に、岡崎別院支部・松井暢子さんと大津別院支部・松川文恵さんが「お念仏の教えをひたすら聴聞し、真宗門徒女性の聞法活動の発展につとめていきます」と支部設立にあたっての決意を宣誓（上写真）すると、会場は激励の拍手に包まれました。

別院支部設立大会を迎えるまでの経緯

(別院への婦人会組織結成促進のための取り組みについて)

昨年四月から新体制となった大谷婦人会が進めている取り組みの一つに、「別院への大谷婦人会組織(支部)結成促進計画」があります。

教如上人四百回忌法要(今年四月厳修)を機縁として、全国に五十二ある別院の中で、婦人会組織のない別院に対して、宗派は今年度(二〇一二年七月から二〇一三年六月まで)に限り「別院教化推進助成」を設けています。

これは、婦人会組織の結成を目的とする「奉仕団上山」か「門徒研修会開催」の場合に助成がなされるというものです。大谷婦人会はこの助成を活用し、多くの別院に大谷婦人会支部が設置されることを願い、当「計画」に取り組んでまいりました。

五十二別院中、現在大谷婦人会支部が存在するのは十八別院ですが、教区や崇敬区域の寺院(その別院をお守りする寺院)の理解と援助を得て活動している支部ばかりではありません。そのような理由から、まずは全国三十教区の各教務所に、新生大谷婦人会についての説明会開催をお願いし、昨年末から今年四月にかけて宮本春美委員長および委員が七

教区に出向き、大谷婦人会の理念や現状、そして今後の展望について説明するとともに、各教区(別院)の教務所長や輪番、門徒の方々と懇談を行いました。

各教区それぞれに地域の事情や問題等があり、短期間での支部設立が難しい中、このたび京都教区岡崎別院と大津別院が新たに支部を設立いただきました。

なお、説明に出向した七教区は次のとおりです。(太字は説明会開催場所)

- ・二〇一二年十一月二十九日
京都教区(山科・赤野井・岡崎・大津別院)
- ・二〇一二年十一月三十日
仙台教区(原町・東北別院)
- ・二〇一二年十二月二十一日
高田教区(高田別院)
- ・二〇一三年一月九日
大垣教区(大垣別院)
- ・二〇一三年一月三十日
三重教区(桑名別院)
- ・二〇一三年二月五日
高岡教区(井波別院)
- ・二〇一三年四月十九日
福井教区(福井別院)



大谷婦人会館・大谷ホール閉館 および大谷婦人会事務局移転のお知らせ

かねてよりお知らせのとおり、大谷婦人会館および大谷ホールが、六月末日をもって閉館となります。

七月より解体工事が始まり、跡地には「真宗教化センター」が建設されます(二〇一五年初夏ごろ完成予定)。二階建てのセンター内には、五百人が収容できる多目的ホール、和室、会長室(特別来賓室)、会議室、オープンサロン(軽食・喫茶室)等が設置されます。また大谷婦人会館内のお内仏、大壁画、茶室等が移設され、今後大谷婦人会の行事等にも使用することができそうです。

七月一日からセンター完成までの二年間、大谷婦人会事務局は、「青少年センター」一階事務室に移転し、毎月の定例法話会は、同センター内の仏間にて行います。

教化センター完成後は、教化センター内の事務室ゾーンへ移転します。



※事務局の住所は7月1日より下記の通り
変わりますが、電話・FAX番号は変わりません。

T600-8168
京都市下京区室町通六条下ル八百屋町273
電話 075-371-6181
FAX 075-371-6171

※駐車場はありません。

行事報告

◎第十回能登教区婦人法話会

期日 三月三日
場所 能登教務所

大谷妙子会長ご臨席のもと、十回目を記念して初めてお招きいたしました大谷敦子顧問と共に七百名余りの会員が集まりました。各支部の感話発表を聞き、前宗務総長・安原晃師のお人柄を伺えるご法話を聴聞し、皆、口の中に入れたアメ玉も忘れるほど、仏の世界に浸っていました。

帰路には、開法の御縁を喜び、今日一日心豊かになったことを知人にもお話しし、大谷婦人会にぜひお誘いしたいという声が届いていました。

(北陸北部ブロック・豊昇通信員)



能登教区連合会総会

◎北海道連合会 春の研修会

期日 三月五日〜七日
場所 定山溪ビューホテル

講師の伊藤元師は、①南無阿弥陀仏を申す ②聞法に志す ③物忌みをしない、という真宗の宗風(ならわし・きめごと)を次世代に引き渡していかなければならないと、力強く、ユーモアをまじえお話しされた。

おどり教室・お内仏のお給仕・仏教讃歌指導等、盛沢山。皆、身も心も満足。三〇〇名参加。



講話

◎岡崎別院支部設立

期日 二月二十八日
場所 岡崎別院

岡崎別院支部の、初めての主催となる法話会「お寺で聞く子育てのお話会」が開催された。

当日は、子育て中の母親やご門徒方など約四十名の参加があり、前大谷中・高等学校校長真城義磨師のお話「子育てを仏法に聞く」を熱心に聴聞された。お話後の茶話会では、飲み物やお菓子が用意され、世代を超えた参加者同士が、活発に意見交換を行った。

◎大津別院支部設立

期日 四月二十八日
場所 大津別院

設立されたばかりの大津別院支部が初めて開いた門徒研修会。はじめに宮本委員長が、「老若男女問わず聞法の場を開いていくのが大谷婦人会の役目。初めの一步を祝して」と挨拶。講師の澤田秀丸師は、「念仏とは何ですか」と前置きし、「南無阿弥陀仏は阿彌陀様のお名前です。人を動かすはたらきです」と、ユーモアを交え分かりやすく法話され、参詣者は熱心に聞き入った。



茶話会



講話

ご案内

第66回 東海近畿地区聞法会

日時 第一組 九月三日(火)〜四日(水)
第二組 九月四日(水)〜五日(木)

講師 大谷大学名誉教授
沙加戸 弘師

講題 「生活の中の聞法」

会場 愛知県三谷温泉「明山荘」

毎月の定例法話会(女性仏教講座)

日時 六月十日(月)

会場 大谷婦人会館三階仏間

講師 京都教区専光寺住職
中川 專精師

聴講無料。どなたでもお参りいただけます。大谷婦人会館での法話会は最後となります。

編集後記

真宗大谷派大谷婦人会となつて早一年、通信『すみれ』三号をお届けします。

四月三日、全国支部長・役員研修会が大谷婦人会館で開かれました。本当に最後のだと感慨深く思いました。「聞法一路」をきっかけ、別院支部設立を促進しつつ全国各支部・各寺院の婦人会の皆様方と聴聞していきたいと願っております。

東海地区では、聞法会も開催されています。関心のある方、興味を少しお持ちの方等初めて参加される方大歓迎です。ゆっくりと講師のお話を聞くことができます。皆様お友達を誘い合わせご参加くださいますようお願いいたします。

また、本紙に関してご意見、ご希望等ありましたら、各委員へ一報くだされば有難いと思っております。

(伊勢)

全国支部長・役員研修会

4月3日 大谷婦人会館



講義



分科会

別院支部設立大会（一ページ参照）に先だち、全国より六十名の支部長はじめ役員・会員方参加のもと開催しました。

講師の譲西賢師（大垣教区慶圓寺住職・岐阜聖徳学園大学教授）は、ご自身がカウンセラーとして、また住職として関わった日頃の家庭生活や子育てなど、女性にとって身近な問題を取り上げ、お念仏の教えを聞く婦人会員が、子や孫、有縁の方々にその教えを受け伝えていくことの大切さを説かれました。随所にユーモアを交え、始終笑顔の絶えない、かつ心あたたまるお話でした。

昼食後、五班に分かれての分科会が行われ、会員の高齢化や団塊世代の就労等により研修会への参加がしづらい現状をふまえ意見交換がなされました。

全国のお寺を中心にして、仏法聴聞できる場を創造していくこと、そして会員が参加しやすい環境を整えることが、いま大谷婦人会活動に求められています。

教如上人四百回忌法要記念奉仕団

4月1日～3日 真宗本廟（東本願寺）同朋会館

大谷婦人会では、初めて奉仕団を結成し「教如上人四百回忌法要記念奉仕団」へ参加しました。北は北海道から南は福岡県まで、全国の会員はじめ有縁の女性を合わせた六十八名に参加いただきました。

特に班別座談会においては、「核家族化や女性の就労により寺離れが進み、お念仏がどのように相続できるのか」という各支部共通の悩みに対して、「若い人たちには、まずは母親教室やコーラスグループ等、関心や興味のあることで参加を促し、徐々に聞法に慣れていってもらえるようにしている」といった工夫や、「男性にも賛助会員として入会いただき、女性が聞法会に参加しやすい環境作りをしていきたい」という積極的な意見が交わされました。

講師の今泉温資師からは、「若者や現代人の寺離れを嘆くだけではなく、できることからやってみよう」と、お寺に足を運んでもらうための秘策などをお聞きしました。

支部の中での会員同士、また支部の垣根を越えた会員同士が、寝食を共にしながらお参りしたり話し合う機会は近年あまりなく、新鮮かつ実りのある三日間となりました。



おはなし



座談会